



「春模様から夏の色」

理事長 澤口 公孝

東北地方太平洋沖地震から二年が過ぎて、大変だった事柄を少しずつ忘れかけています。辛い事柄を忘れることで、新しい出来事に立ち向かって行く力が湧いてくると言います。お亡くなりになった方々、被災された皆様のことを忘れることは出来ませんが少しづつ放念していることは事実です。

遅々として進まない行政の復興対応は気になる所ではありますが、理解協力して行きたいと思っています。

私共の保育園に採用が決まった職員は、釜石の出身でこの早春にようやく未だ発見されぬご遺族二十一名分を三回忌

までにと、弔い終えたそうです。先日、遠野市の本田敏秋市長さんの被災時のお話を伺う機会がありました。この世の終わりを体験した沿岸部の皆様と悲惨と惨状を間近に感じながら、支援に明け暮れた遠野市の皆様のご苦勞を伺っているうちに、熱いものが込み上げてきました。犠牲となられた皆様方に深い哀悼の念を持って御霊の安寧を祈願したいと思います。 合掌

昨年夏に開設したユニットケアもなんとか軌道に乗せようと職員一丸となって運営されています。ホームとは一味違った生活環境作りを行うことで、入居者の皆様は昔を思い出しながら趣味を生かした時間と外食にも出かけ、社会性を失うことの無いようそれぞれの生活場面を楽しんでいらつしやるようです。

発行日  
平成25年8月1日  
社会福祉法人みろく会  
高齢者部門  
光葉園  
発行責任者  
澤口 公孝  
編集  
栗本晃仁  
小野寺恵  
一年2回発行-

新年度早々職員の異動があり、近年にない慌ただしさと戸惑いが先行して今季のロータスの発行が遅れてしまいました。楽しみにされていらした皆様にお詫び申し上げます。

各事業所体も介護人材不足に見舞われ、事業の展開に四苦八苦しておりました。ぎりぎりの人員配置の中で、インフルエンザや体調不良を訴える職員やその家族の看病に追われながら皆しっかり乗り切ってくれました。その底力は感謝してもし切れないほどに有難いものでした。

それでも市内に蔓延したインフルエンザもノロウイルス感染も入居者・利用者には無縁のものとして終わりました。これは職員の努力の賜物でしょう。職員家族に感染者があったと報告がありました。拡

大感染とならなかつたのは不幸中の幸いでした。市の介護保険課の職員の方も驚いておられました。

内閣府24年度発表の介護職員の段位制の本格的なスタートに向けて職員を具体的に評価する評価者(アセツサー)の養成研修が始まり、第三者の目で見た介護者のレベルが査定されます。つまり誰が見ても同一の評価が与えられることになりま。そのために給与規程を改正する準備にはいりました。利用者には安心を、介護者にはレベルに見合った評価処遇が与えられることでしょう。

今無資格の介護補助者が介助員になる為、働きながら勉強しています。一人でも多くの職員がお世話できたら笑顔が一層増えて来ると考えています。一緒に働いてくれる人を探しています。一緒に働きませんか？